

パラオにてかごしま丸乗船学生の施設見学と現地高校生との交流を行いました

2024年9月4日、附属練習船かごしま丸はパラオ共和国コロールで主要海洋関連施設の学生見学と公立パラオ高校との学生交流を行いました。この見学と交流は、かごしま丸の遠洋航海の途上に実施されたもので、乗船中の水産学部2年生24人（公海域水産乗船実習受講）が参加しました。

午前は、幅野明正船長以下3人の引率で「海洋生態系の保全と水産資源の持続的利用の両立」というパラオの国家的課題の取り組む3施設を見学しました。

重要産業種シャコガイの種苗生産を担うパラオ海洋養殖普及センター（PMDC: Palau Mariculture Demonstration Center）では、水産局派遣中の與世田兼三 OFCF 専門家（持続的海洋水産資源利用アドバイザー）から施設概要と種苗生産・配布について説明を受けた後、施設を見学しました。ベラウ沖合漁業組合（BOFI: Belau Offshore Fishers, Inc.）では、行平英基 JICA 専門家（パラオブルーエコノミープロジェクト）から施設やプロジェクトの概要説明を受けると共に、燻製器、冷凍室、漁獲物処理施設等を見学しました。BOFI は、沖合水産資源の開発・利用を目的として日本から無償供与された一本釣り漁船でマグロ類など外洋性回遊魚を漁獲し、刺身用の柵や燻製等の加工品を販売しています。見学時に試食させて頂いたなまり節や燻製を購入した学生もいました。



PMDC のシャコガイ種苗生産施設見学



BOFI の漁獲物を使った加工製品の試食

同国やミクロネシア地域のサンゴ礁保全の一翼を担うパラオ国際サンゴ礁センター（PICRC: Palau International Coral Reef Center）では、アウトリーチ担当職員と板垣佳那子 JICA 専門家（統合的沿岸生態系管理能力向上プロジェクト）から、パラオの海洋生態系や海底地形、展示生物の説明を受けながら、PICRC に併設された水族館を見学しました。マングローブは塩分をため込むと変色して落葉するものがあるとの説明に、マングローブの葉を実際に口にしました。



PICRC でのサンゴ礁の生物展示の見学

午後は、パラオ唯一の公立高校であるパラオ高校から、教員 2 人に引率された生徒 20 人が訪船し、本学学生と交流しました。船長挨拶、パラオ在住の菅原氏による鹿児島市とパラオの繋がりについての説明等の後、畑辺航海士から英語で水産学部と練習船（かごしま丸、南星丸）の概要を紹介しました。アイスブレイクを兼ねた学生同士の自己紹介、乗船学生の案内による船内見学、学生食堂で日本のお菓子を食べながらの歓談を通して、両国の学生・生徒は共通の趣味の話題などで大いに盛り上がり、お互い写真撮影するなど、終始、和やかで楽しい交流となりました。



パラオ高校の生徒との交流



乗船学生とパラオ高校生徒の集合写真

翌 5 日には、農業・水産・環境省水産局の Persis Omelau 局長以下職員 3 人が行平専門家と共に訪船し、幅野船長より、かごしま丸のマグロ延縄漁具や操業方法、漁獲物の種類と保蔵方法、漁獲生物の測定方法等について説明を受けると共に乗組員の案内で船内を見学しました。参加した水産局職員は、漁獲生物の測定方法等に深い関心を寄せ、機会があれば測定方法の指導を受けたいとの声も聞かれました。また、ミクロネシア地域から水産学部への留学実績や奨学金制度についても質問がありました。



水産局職員のかごしま丸訪船

今回の見学・交流に際し、パラオ共和国農業・水産・環境省水産局、PICRC、BOFI、国際協力機構 JICA 及び海外漁業協力財団 OFCF Japan の関係者並びにパラオ在住邦人の皆さま他、たくさんの方々に御協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

今回の学生見学等の記事が、パラオ日刊新聞 TIA BELAU（9 月 9 日付）と ISLAND TIMES（9 月 10 日付）に掲載されました。

<https://islandtimes.org/fostering-blue-prosperity-through-educational-exchange-strengthening-japan-palau-ties/>